

四番町図書館コメントコンテスト

応募総数 235 点から司書が選んだ

コメント 10点!

あなたの投票で
大賞が決まります!

2 『火星に住むつもりかい?』

伊坂幸太郎 / 著

株式会社光文社



この本の題名を見ると、どんな SF なのか、と考えますよね。でもこれ、実はサスペンスに近いのです。始まり方は唐突で、平和警察という残酷な制度を中心に話が展開していきます。主人公は、誰なのか分からず、最後にこの人だったのか!と驚かされました。テーマは、正義と偽善について。とても興味深い内容です。あなたも手に取って見たら、この話が理不尽なことを忘れさせ、壮快感で満たされると思います。 【レッドソックスファンさん】

4 『グレッグのダメ日記 とんでもないよ』

ジェフ・キニー / 作

中井はるの / 訳

ポプラ社



グレッグのダメ日記という本は、私を前向きにさせてくれた本です。〜とんでもないよ〜というサブタイトルは、この第9弾にピッタリです。主人公はグレッグという少年です。グレッグが、過ごす毎日で起こる出来事をおもしろおかしく日記につけています。この本はノートのように罫線が入っており、絵も場面ごとに細かく描かれているので、まるで本当の日記を読んでいるような気持ちになります。おもしろいので、ぜひ読んでみてください。

【シャイボーイあたえさん】

1 『いたいのいたいの、 とんでゆけ』

三萩緋 / 著

株式会社KADOKAWA
アスキー・メディアワークス
(メディアワークス文庫)



もし、人生のどん底に突き落とされたとしたら皆さんならどうしますか?この本は、人生のどん底の中で生きていく男性と少女の物語です。10日間という限られた時間の中で、彼らしく生きていて、暗闇の中で生きていても、私には勇敢に見え、幸せだったのだなと感じました。読む人によって、かなり感じ方が違う本だと思いますが、辛い時にこの本を読んで、案外小さな事で悩んでいたと気付かされるのは確かです。一度、読んでみては? 【レオさん】

3 『鴨川食堂』

柏井壽 / 著

株式会社小学館(小学館文庫)



京都にある小さな食堂。この食堂は看板がありません。頼りになるのは料理雑誌に載っている「“食”探します。」の一行広告のみ。それでも利用者は、懐かしいあの味を求めて食堂へやって来ます。“あの味”を再現できるのはもちろん、お客さんの抱えている問題を料理を通じて解決していきます。問題解決もさることながら、何より料理の描写が事細かくとてもおいしそう!皆さんも鴨川食堂にいらしてみませんか? 【N,Sさん】

5 『つみきのいえ』

平田研也 / 文

加藤久仁生 / 絵 株式会社白泉社



この絵本は、海面が上昇する度、元の家の上に新しい家を建て、まるでつみきを積み重ねた様な家に1人で住むおじいさんのお話です。何事にも変えられない大切な思い出のある家だから、おじいさんはこの家に住み続けています。私達が何気なく過ごしている毎日が重なり「つみきのいえ」になるのだと思います。また海面上昇から地球温暖化が連想されたりと、少し大人向けの絵本にも感じますが、たくさんの人におすすしたい本です。

【もなみさん】

6 『友だち幻想 人と人の(つながり)を考える』

菅野仁／著

株式会社筑摩書房(ちくまプリマー新書)



反抗期・思春期に入ると友達との付き合い方が変わってくる。友達と喧嘩をしたり、気まずい雰囲気になったり、劣等感を抱いたり。また、友達だけでなく、親や周りの大人に対しても同じだ。この本は、学校や社会での人との関わり方、「友だち」というものはどのようなものなのかと考えさせる本である。この本を読んで、私は「友だち」という考え方が変わり、より良い友達との付き合い方ができると思えるようになった。 【リッキーさん】

7 『葉っぱのフレディ』

レオ・バスカーリア／作

みらいなな／訳

童話屋



この絵本は、子どもたちに死について説明ができない大人たちが読みきかせするためにつくられたものです。絵本なので、葉の写真や絵が描かれていて色や木についている葉の数で時間の経過が簡単に読みとれます。また、フレディの友人ダニエルが「死ぬというのも変わる一つの道だよ。」と死は終わることではないことを今の自分に気づかせてくれた一言です。幅広い世代に生命について改めて考えさせてくれる絵本です。 【まるさん】

8 『はなちゃんのみそ汁』

安武信吾・千恵・はな／著

株式会社文藝春秋(文春文庫)



この話は映画化や日本テレビの24時間テレビでドラマ化もされた実話です。千恵さんは25歳で乳がんを患った後にムスメのはなちゃんを授かったので、文字通り命がけの出産をしました。千恵さんは、はなちゃんが成長していく中で生活する為に必要なたくさんの事を教えていきました。特に本の題名にもなっている味噌汁は、毎日欠かさず出汁から作っているそうです。読む人に少しでも早く起きて手伝いをしようと思わせてくれる1冊です。 【みーさん】

9 『星の王子さま』

サン＝テグジュペリ／著

河野万里子／訳

株式会社新潮社(新潮文庫)



飛行士の「ぼく」が飛行機のトラブルで砂漠に不時着するところから物語は始まります。そこに現れた金髪の小さな男の子が「王子さま」です。この本はいつのまにか当たり前にしてしまっていることを気づかせてくれる一冊です。誰かを愛することの意味だったり、生きる重要さだったり、純粋な星の王子さまの純粋すぎる質問が、大切な何かを忘れてしまっている私たちにもう一度考える時間を与えてくれます。 【NONTYさん】

10 『窓ぎわのトットちゃん』

黒柳徹子／著

いわさきちひろ／絵

株式会社講談社



この本を読み、私は自分の思い出を振り返ってみました。人に優しくできたでしょうか。自分に厳しくできたでしょうか。皆さんはどうですか。人は何かを覚えると、何かを忘れてしまいます。ですが、この本の著者は忘れることなくしっかりと思い出として残っています。私は書こうと思ってもここまで書けないと思います。この本を読み、これから出逢う人達を尊敬していこうと私は考えました。 【まっちゃんさん】

投票方法

- 展示・投票期間 10/27(木)～11/9(水)
- コメントを読んで、いちばん「読みたい!」と思った本に投票をお願い致します。
- 備え付けの投票用紙にご記入のうえ、専用の投票箱に投票してください。
(投票箱設置館: 四番町図書館・千代田図書館・日比谷図書文化館・昌平まちかど図書館・神田まちかど図書館)
- 得票順に大賞1名・準大賞2名を決定します。
- 発表は11月中旬です。
(千代田区立図書館に掲示します)